

避雷器本体内部素子の点検方法は動作開始電圧（素子に微小電流を流したときの電圧）を測定して判断します。

## ●端子配列と結線図

### 本体部

ピン側よりの図

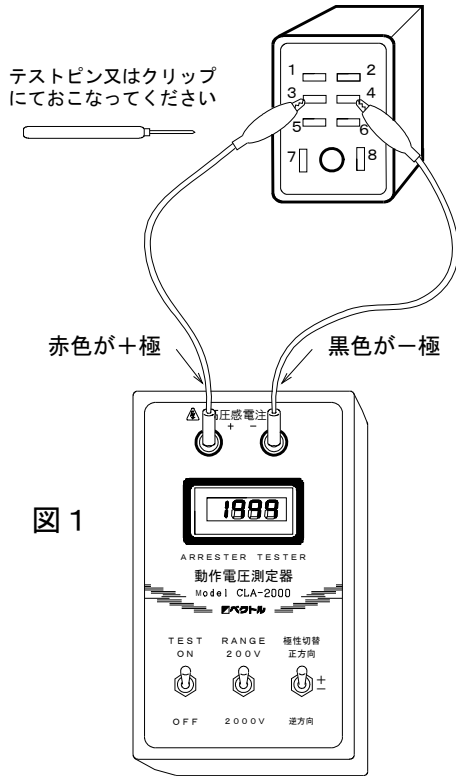
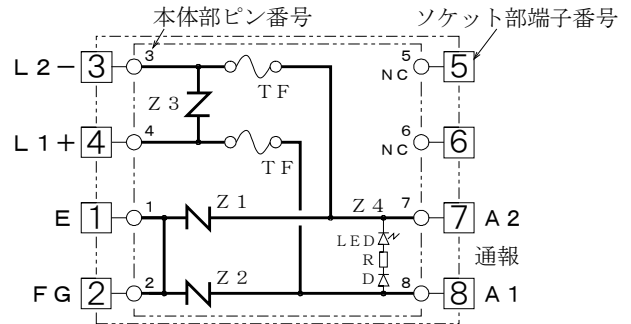


図 1

## ●交流電源用避雷器



Z 1, Z 2, Z 3 : 酸化亜鉛式サージ吸収素子  
 TF : 温度ヒューズ  
 LED, D, R : ランプ表示回路 (ONライン中緑色点灯)

### 点検前・・・ご注意

- ① 安全のため配線されたソケットより外して行ってください。
- ② 感電にご注意ください。  
TESTスイッチONにしているとき、出力の電極を素手で触れないでください。
- ③ 試験回数につきまして  
2～3回程度で終了してください。  
モリブデン式のみでなく酸化亜鉛式、ギャップ式なども劣化の原因になることもあります。

### 点検後・・・新品交換待ちになった場合

- ① 劣化と判断した場合であっても信号に支障がなければ、新品交換まで付け戻してください。  
交換までの雷サージ対策となります。

### チェッカーの動作について

チェッカー CLA-2000の数値は  
 TESTスイッチをOFFにするまで表示します。

## ●素子の良否判定方法

- ① チェッカーCLA-2000を図1のように接続します。（または試験用ソケット使用にて端子に接続します。）
- ② 測定する端子間の動作電圧に合わせてRANGE（レンジ）を切り換えてください。
- ③ TESTスイッチをON側に投入してください。
- ④ 指示値が下表の範囲外の場合は、劣化（不良）と判定します。

### <交流電源用避雷器 SA-200>

各素子	測定端子	端子番号 ⊕ ⊖	印加電圧 (レンジ)	確認内容
線間	L2-L1間	*1 3-4	DC2000V	4 2 3-5 1 7V 範囲内であること
線-接地間	E-L1 間	*1 1-4	DC2000V	4 2 3-5 1 7V 範囲内であること
線-接地間	L2-E 間	*1 3-1	DC2000V	4 2 3-5 1 7V 範囲内であること
通報出力	A1-A2間	*1 7-8	DC2000V	4 2 3-5 1 7V 範囲内であること

\* 1 ランプ回路があるため極性を指示通りにしてください。